

虚空への階段

山口 哲史

峠の茶屋の立ち上げに携わったのは、今から12年前の事。私にとって峠の茶屋は、学内では学べない、新たな表現の可能性を探るための秘密基地のような存在であった。当時、私は彫刻専攻で、石や木などの自然素材に向き合う日々の傍ら、その延長として、土や建築への関心から峠の茶屋作りに参加したように思う。道路拡幅のため竹林の斜面を崩していた現場から土を調達し、幾つもの土煉瓦を作り、塀を立ち上げたり、格子状に組んだ竹に、隅々まで土を入念に練り込んでいったりした。その過程は非常に興味深く、土を建材として扱うための知識や技術はもちろん、素材を購入して調達するのではなく、身近に遍在する素材を活かす術をも学ぶ貴重な機会となった。

特に、峠の茶屋の二階へと上り、空を望むための階段を、一本の木材から無我夢中に彫ったことを鮮明に覚えている。その形状は、アフリカのドゴン族の階段やブランクーションの無限柱のようであったと記憶している。果てしなく広がる空《虚空》との同化を希求する当時の自分自身を、階段を彫刻するという行為に投影していたのかもしれない。この経験は図らずも、現在の制作活動に大きく影響を与えている。

現在は、実空間から絵画空間へと関心は移り、《虚空》を主題に据えて日々制作に取り組んでいる。無限に広がる余白の中で、画面上で生起する現象との対話を手掛かりに、虚空と同化する《間合い》を探求している。

トアロード画廊という、空へと昇る螺旋階段。願わくば、螺旋階段の壁面に掛けた絵の中で、無限の虚空に通ずる窓を開きたい。

[Exhibition]

2013 個展(トアロード画廊/神戸)2013~'20

2018 ACT大賞 最優秀賞受賞 企画展『虚実の彼方へ』(The Art complex Center/東京)

[Education]

2008 京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻卒業



トアロード画廊(神戸市)での個展会場風景(2020年)